

拝啓 今年も早や9月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今近所の公園では、きんもくせいが咲き始めました。

今回は新渡戸稲造先生の『人生雑感』の6回目「母の力」という講演録から引用です。(2)のところに次のようにあります。

娘が、母に学問させてくれと頼むと、「母は一晩ぐらい眠らずに考えて、どうかして私の力でも娘の1人ぐらいは学問させることができそうなものだ。いままでは朝6時に起きたが、これからは朝も4時から起き、夜は10時に寝たのを1時頃まで内職してでも、あれ程に望む学問をさせてやろうと決心して、子供を学校にやる。これは決してまれな場合ではない。」

私も、母が、米軍放出の化粧品や食料品を、自転車に積んで知り合いの家に売りさばく内職をして、子供3人の教育費を稼いでくれました。その頃は、ぜいたくな遊びであった登山にも行く費用を出してくれました。そのことは、すっかり忘れていましたが、新渡戸先生のこの文章を読んで、思い出しました。

8月18日になくなられた佐生健光さんを偲ぶ会が、9月18日、市川のセレモニーホールであり、司式を致しました。佐生さんは、昭和27年からの高円寺東教会のメンバーで、石館基さんと共に二人の兄弟子として、長い間お世話になりました。今井館の高円寺東集会の共同代表者であり、最近の思い出としては、今後のテキストを何にするかを御相談したとき、テサロニケ、テモテなど、これまで集会で取り上げていなかったテキストを取り上げるように、また、小西先生の本はテキストをコピーして製本するという簡便法でつくるのではなく、ちゃんとした本の形で発行しなさいと言われ、そのアドバイスに従って集会、本づくりを進めています。佐生さんの3部作『キリスト教の称名』『キリスト教の望』『キリスト教の愛』は、小西先生の称名の信仰が、創世記以来連綿と続けられた普遍的な教えであることを論証した大著であります。

偲ぶ会で歌った讃美歌は、セレモニーホールで紹介して頂いたオルガニストの奏楽でしたが、献花の際、佐生さんの愛唱讃美歌をいくつもメドレーで弾いてもらったことは大変良かったと思いました。

8月29日、30日は、南原研究会の本の編集を手伝ってもらっている西原賢太郎さんと、霧ヶ峰に行きました。ヒュッテ・コロボックルに泊まり、車山から八島湿原まで歩きましたが、好天に恵まれ、良いハイキングでした。

すっかり秋らしい毎日になりましたが、どうぞお身体お大切にお過ごしください。 敬具

平成29年9月25日

山口周三

エンカウンター of 読者各位